

【会議記録】

令和 6 年度

村上市高齢者虐待防止ネットワーク会議

・ 認知症対策推進会議（認知症初期集中支援チーム検討委員会）

令和 7 年 2 月 13 日（木）午後 3 時～4 時 30 分

マナボーテ村上 2 階大会議室

参加者：別紙名簿のとおり

1 開会のあいさつ 介護高齢課長

2 高齢者虐待防止ネットワーク会議 （資料 1）

（1） 令和 6 年度 村上市の高齢者虐待の状況 ～主に養護者による虐待について～

事務局： 資料 1 説明

委 員：P4 の 80～84 歳が多い理由は、

事務局：身体的不自由と認知症状の進行の多い年代と考える。

委 員：P6 の 50～59 歳が多い理由は、

事務局：夫と息子からの虐待が多い。息子の年代から 50 代が多くなったと考える。

（2） 今後の虐待防止に関する取組について ～相互の連携を図るための意見交換～

事務局：警察から見た村上市の高齢者虐待の現状について伺いたい。

委 員：令和 6 年度通報件数の 29 件の中には、同じ家庭から複数回の通報がある。虐待のある家庭は一度の対応で解決することは難しい。春に対応し秋に再度対応したこともある。暴行がひどい場合は事件化することもある。1 つ 1 つのケースを市と連携し対応している。

事務局：次に相談件数の多いケアマネから対応について伺いたい。

委 員：事業所でも高齢者虐待対応マニュアルを作成、フローチャートに沿って対応している。認知症の母と息子の 2 人暮らしのケースで、介護者 1 人で抱えている場合が多く虐待につながりやすい。虐待の判断が難しくグレーの人が多いが、他事業所と情報を共有し、包括へ報告している。

事務局：虐待を発見した時の対応について伺いたい。

委 員：虐待と紛らわしい発見も多いがケアマネに報告している。一件の家に複数のヘルパーで従事しているので虐待を認識した後ヘルパー間で報告している。報告したことによる家族への影響も心配している。独身で未婚の息子が多い。

委員：近年、虐待の事例は見られない。しかし予備軍はいると感じている。経済面で必要な介護を受けられないケースはケアマネに挙げている。収入減により利用者のサービス増につながらない。介護する側の理解不足（まだできるだろうという期待）がある場合もある。身体的痣を発見したときは記録し家族に確認するようにしている。頻回な場合はケアマネに挙げている。

事務局：福祉の総合相談の現状は。

委員：令和 6 年度から重層的支援体制整備事業を実施している。また、DV も担当している。2 か月に 1 回くらい相談がある。高齢者虐待について重層の枠組みの中で検討していく。

事務局：経済的な面で虐待につながる場合も多いが社協から現状を伺いたい。

委員：高齢者の年金が同居家族の生活費に充てられサービス利用ができないというケースがある。その場合は関係者で情報共有を図り、社協としては収支の家計支援から入りサービスを受けられるよう一緒に考えていく。

事務局：これからも関係者間で連携し高齢者虐待防止に取り組んでいきたい。養護者も一生懸命介護しているので地域から労いの声掛けが大切である。これからも協力をお願いしたい。

3 認知症対策推進会議

（1）市の現状と取組について（資料 2-1・2-2）

事務局：資料 2-1・2-2 説明

委員：認知症と聞くと頭が痛い。人生 50 年から老後はなく死ぬまで働く時代に。今は生涯 100 年。60 代で退職すると退職後の期間をどう過ごすかが 1 つの要因と思う。退職後も生きがいを持って頑張れる環境があれば良い。

委員：Q2-2 成年後見制度利用促進協議会とあるがこれについて教えてもらいたい。

事務局：令和 5 年度から制度を必要とする人が必要な時に利用できるよう検討する場として検討を重ねている。弁護士・司法書士・社会福祉士・行政書士・民生委員・医療相談員等の人権擁護委員で構成している。法人後見も貴重な担い手であり委員である。

委員：人権擁護委員の方でも啓発活動で人形劇を行っている。（相続と遺産、成年後見について）検討の場があるのなら取り組みをもっとアピールしたほうが良いと思う。

委員：高齢者施設の運営推進会議に参加している。施設で開催していた認知症カフェがコロナ禍で休止していると聞いた。ぜひ再開してもらいたい。

（2）認知症地域支援推進員からの活動報告（資料 2-3）

認知症地域支援推進員より資料 2-3 説明

（3）今後の認知症施策についての意見交換

事務局：認知症の方と日々接しているグループホーム職員として知ってもらいたいことを伺いたい。

委員：ご本人をわかりたいと思って日々接している。ご本人が今言ったことを聞き逃さないようにしている。言葉ではなく、行動に出てくことも多い。認知症の方は日々困っていると思うので、そこを理解し対応するのが私達の仕事と思っている。本人の良いところを伸ばせるように支援していきたい。

事務局：認知症の方を介護する家族として知っておいてもらいたいことは。

委員：母を介護している。母がこうなるとっておらず、母の状態を認めたくない気持ちもある。つい声を荒げることもある。以前の介護経験が生かされていない自分がある。また、区長もしていることから、母と同じような地域で独り暮らしをしている人を民生委員と相談しながら見守り活動を続けて4年になる。最近は「ありがとう」と言われるようになった。他の家のことをどこまでやっていいのか模索中。

事務局：認知症の関係で受診の現状を伺いたい。

委員：皆にとって認知症は一番気になる疾患。検査すると全く異常のない人もいれば、進行している人もいる。最近は点滴薬も出てきた。早期発見が大切なので、変だと思ったら受診をしてもらいたい。進行してくると大変だと思う。

事務局：保健医療課や医療機関の取り組みを伺いたい。

委員：令和2年度から、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業に取り組んでいる。健診結果で気になるハイリスクの方に個別指導を行っている。通いの場でのフレイル予防も実施。その中で、必要な場合は包括につなげている。

委員：認知症入院病棟がある。新規患者の半分弱を認知症患者が占めている。今年の4月から当院で認知症カフェ「こころのカフェ」を開始する。毎月第3木曜日はまなすHPで開催予定。カフェ初回は心理士の講義を予定している。

事務局：徘徊高齢者の対応で徘徊シルバーSOSの現状について伺いたい。

委員：徘徊シルバーについてはよくわからないが、消防本部から高齢者の行方不明連絡はある。防災無線、アプリ、LINE、メールを使った情報発信ができるが、家族の意向により対応が異なる。令和6年は現時点で利用0件。

事務局：様々な機関が連携して認知症の対応等に取り組んでいきたい。県からご意見いただきたい。

委員：令和7年度にチームオレンジの全市町村設置を目指す。本人や家族の声をききやりたいことを支援する取り組みをさらに進めてもらいたい。

4 認知症初期集中支援チーム検討委員会（資料3）

事務局：資料3説明

事務局：ケース報告。症状進行し、結果的に受診にはつながらなかったが、姪の支援で他病院の受診につながることができた。

委員：区長・民生委員で確認しているが角度を広げないと解決が難しい。とてもデリケートな問題でもある。民生委員にも負担のかからない動きやすい体制ができればと思う。

5 その他

事務局：全体を通して質問・ご意見は。

委 員：認知症の方から介護職員への暴力があると聞いた。それは数値には入っていないのか。

事務局：今回報告したところには入っていない。介護者のケアのやり方で対応している。

事務局：認知症推進計画は今後介護保険 10 期計画に挙げる予定である。来年度計画策定の準備に取り掛かる。次年度に今回参加の皆さんに認知症会議の委員として、声がかかったときには協力をお願いしたい。

6 閉 会